
another way

古染あきさ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

another way

【Nコード】

N5223R

【作者名】

古染あきさ

【あらすじ】

自殺したはずの飯島美琴が目を覚ましたのは、天国でも地獄でもなく、異世界だった！無気力な主人公と彼女を取り巻く異界の住人たちの異世界トリップ恋愛ファンタジー。

死んだはずなんですけど

「ここは…?」

目覚めると、飯島美琴いじしまことは見知らぬ森の中に倒れていた。

「天国、なのかな」

確かに自分はビルから飛び降りたはずだ。

胃がふわっと浮いた感触を思い出す。

最後の記憶は顔面に迫ったアスファルトだ。

自分の体を見してみる。

服が少し土で汚れている以外に外傷はない。

やはりここは死後の世界なのだろうか。

「結局、消えることはできないのね…」

美琴は静かに落胆する。

彼女の望みはただひとつ、「消える」こと。

天国にも地獄にも行きたくなかった。

「さて、どうしようかしら」

天国のわりには薄気味悪い森。

もしかして地獄に堕ちたのだろうか。

辺りは薄暗く、土はひんやりと湿っている。

耳をすませても何も聞こえず、生き物の気配すらない。

「死んだ人間は放置なわけ？一体どうしろっていうのよ」
半ばヤケクソで言い捨てる。
自分は本当に死んだのだろうか。
ちっとも実感が湧かない。

とにかく気味の悪い森を抜けようと、まっすぐ歩いていくことにする。

すでにかなり暗くなってきている。

死後の世界の日没事情は知らないが、このまま真っ暗な森にいるのは遠慮したい。

1時間ほど根気強く歩き続け、このまま彷徨い続けなければならぬのかと危惧し始めた頃、ようやく景色が変わった。
相変わらず森の中ではあったが、小川が流れていたのだ。

「よかった。川を辿っていけばいいわね」

目印もなく変わり映えしない森の中を歩き続け、いい加減にわめきたくなっていた。

とりあえず川に沿っていけば森を出られるだろうと安堵する。

川の水はきれいに澄んでいる。

そっと水に触れてみるとひどく冷たかった。

「これ飲めるわよね…？」

歩き続けたせいで喉が渴いていた。
川の水をすくい、恐る恐る口に運ぶ。
微かに甘い冷水が喉をすんなりと通る。

「おいしい…」

それにしても、喉が渴いたり歩き疲れたりと、まるで生身の人間のようだ。

(もしかして、あたしは死んでいないの…?)

それならば一体ここはどこだというのだろう。
急に背筋が冷たくなる。

ふるふると頭を振り、余計な考えを吹き飛ばす。

(あたしは死んだの。ビルの屋上から飛び降りたんだから…)

今はとにかく森を抜けることに専念しようと思ひ、再びずんずんと歩き出した。

死んだはずなんですけど（後書き）

読んで頂きありがとうございます。

これから頑張っていくしますので、よろしく願いします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5223r/>

another way

2011年3月10日21時08分発行